

○ 東京工業大学 正員 鈴木 忠義
 ラック計画研究所 正員 渡辺 貴介

I問題の出現 土木計画の中には“あるもの”すなわち“それだけしかないもの”を対象とする場合と、“つくるもの”すなわち“土木技術で創造しうるもの”とがある。前者はある流域の水資源のようなものであり、後者は交通施設のようなものである。この二者を巧みに使い分けて人間のための文明を築いてきた。

ところが、図-1にあるように、資源の有限性、自然浄化の有限性が明瞭になってきた今日において、明らかに、中間にある人間の行為に変化がなければならないこととなる。

人間の活動範囲を著しく拡大してきた今日の文明は、まさに“物”の拡大そのものといってもよい。しかしその物の拡大が不可能になってきたということは、人間の“物はなれ”の思想が基底になければ成立しそうもない。そこで“物はなれの思想”に基づいた土木計画すなわち、地域計画はどのように考えてゆけばよいのかということがこの報告の発端である。

2.4つの思考軸について 地域計画の構成を考える軸は多く存在する。ここでは図-2のⅠⅡⅢⅣにあるように、4つの軸を設定して考えることとした。

(Ⅰ)Ⅰ軸 計画の5要素 計画には主体・目的・対象・手段・構成の5つの要素があることは定説となりつつある。ここで、こくに問題となるのは、“計画の主体”である。そこで図-2の計画の主体と構成員というところに注目してもらいたい。計画の主体（公共の場合は特にそうであるが）は一般の国民・市民・住民であって、計画を立案したり・すすめたりする人ではない。このことを本当に理解していないと、計画立案者として十分な資格者とはいえない。このことは、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ軸を眺めて見れば明らかとなる。

(Ⅱ)Ⅱ軸 Plan Do See このPlan Do Seeという用語はもともと経営学の言葉である。計画を立て、実行し、見直しをし、次の計画を立てるという団体や組織の前進を計ることである。これもここで考えているⅠ～Ⅳの軸とうまく重ねることができる。

(Ⅲ)Ⅲ軸 理念の形成 先進者につづく後進者の安易さは、常にあるべき目標がリアルに存在することである。わが国が後進性からデーフ・オフに成功したものの、急進なるが故に、目標設定についての訓練が全くできていない。この目標設定こそは、先進者の最も苦心するところである。人間の存在を認めざるは、存在のための環境が必要となる。それが自然からのアフションで人間に不利であるならば当然、自然へのリアフションとして開発がおこなわれ人間の存在が実現することとなる。

(Ⅳ)Ⅳ軸 計画の段階 計画の段階は大別して8段階を考えてみる。1の生存とよびおよび2の環境の基本は社会思想の問題であり、価値観の問題である。そこでその方面の専門家とともに主体そのものとの対話において求めなければ計画はすすまない。その結論がこの現状と課題の抽出の基本となる。地域計画においては、このところを逃げて通れないものと私は考えており、さらに大切な

図-1 価値観の転換

ことは、4の目標の設定である。また5の対象においても、土木的な地域開発をおこなうことは最終的には物（建設事業）によることとなるが、それを進めている段階において、図-2の対象に書かれている5つの項目が重要となる。そして、基本方針を打ち出し、計画案へつづくことになるが、目標の設定基本方針までが地域計画の前段の主要な部分であることを強調したい。

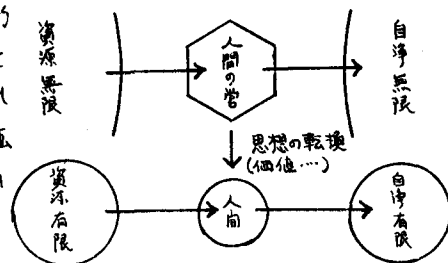


図-I. 地域計画の構成

東工大 鈴木忠義

計画の要素		計画の主体		計画の目的		計画の対象		計画の手段	
I 計画の要素		II P.D.S		III 理念の形成		IV 計画の段階		V 計画規模	
計画の主体		計画の目的		計画の対象		計画の手段		計画の手段	
Seeing		Planning		Doing					
人間哲学		環境哲学		開発哲学		基本方針		計画案	
1		2		3		4		5	
健康 生きがい 発見の喜び 創造の喜び 守る喜び 参加の喜び		環境条件 変化 安全 安定 公正 自由 選択 位置づけ		現状と課題の補正 国際交流 小国・人喝島 災害列島 資源エネルギー 人間列島 老人問題 教育問題 通商問題 通勤問題 住宅問題 余暇問題 環境問題 物流問題 ...		目標・年次 標準・指標 重要度 国の安全度 地域の安全度 個人の安全度 広域化度 地方色 文化度 シンボル性 地域の独立性 社会資本の充実度 能力発揮の機会 経済格差 ...		計画目標の設定 対象 例 空間 (地域・地帯) 資源 施設 補償 年金 補助金 年金 利子補給 人件費補給 リ-グ- 計画委員会 組織・法規 知識 (地理情報結合 已に整理組合 信頼感 (不信感) 一体感 意識の存在	
環境項目 自然史 環境心		環境項目 自然史 環境心		環境項目 自然史 環境心		環境項目 自然史 環境心		環境項目 自然史 環境心	
国レベル		国レベル		国レベル		国レベル		国レベル	
地域レベル		地域レベル		地域レベル		地域レベル		地域レベル	
地域レベル (広域生活圏)		地域レベル (広域生活圏)		地域レベル (広域生活圏)		地域レベル (広域生活圏)		地域レベル (広域生活圏)	